242

気がなくなるようす。 っかり〈副・する〉 例そう ₩ そうがっかりするなよ。 類失望で気がゆるみ、すっかり元

期・二学期・三学期とか、前期・後期とかにわけたひと?っき【学期】〈名〉学校生活の一年間を、一学活気がある。活気にみちる。活気づく。飄生気。 るいきにいきおい。 個?っき【活気】〈名〉はつらつとしたいきおい。 個?っき【活気】〈名〉はつらつとしたいきおい。 個

まり き【楽器】〈名〉 「新学期」といえば、四月からの新しい学年の始 音楽を演奏するための道具。

を担ぎ出す。2みんなで説得などをかついで外へ運び出す。 どになってもらう 官楽器• 例選挙: 担ぎ出す 停して、代表や候補者な 例以事場からけが人 り】〈動五〉 ①重い荷物

いえるほどだ。別いれるほどだ。別 こなっすばらしさで、新しい時代をきりひらいもきてき【画期的】【『劃期的】〈形動〉 伽画期的な発明。 。 類エポックメー代をきりひらい メーキ いたと 今

に打ちこむ人。 **個学究** きゅう【学級】〈名〉 ||究肌==。||類学者。研究者。||《名》 ひたすら学問の研 研究の

したりするために わけたもの。 「関学級担任。学級びらき。学級活い、生徒を、いくつかの大きなグルー学級】(名)学校で、勉強したり活きる。 え。組。

つぎょ【活魚】〈名〉 きょ【割拠】〈名・する〉 類鮮魚 点】〈名〉生きのいい魚。 伽活魚料勢力をはること。 伽群雄紫割拠。柳】〈名・する〉 いくつもの勢力が、各

つ ☆がいいようす。
図活況を いようす 活況を呈 音楽作品 呈でする。類盛況。商取引いりかが活発で、 図さまざ

かっきん【「恪勤】(名・する) まじめに仕事にはげ まなジャンル かた。例十時かっきり〈副〉 きょく【楽曲】〈名〉 っきりに電話した。鬩きつかり。「ちょうど」「正確に」のくだけた言い楽曲を手がける。鬩曲。

●自分たちの上に立つ人だとして、みんなでおしたて る。例今長に担ぐ。週縁起を担ぐ。御幣とを担ぐ。 がっく【学区】〈名〉公立学校の通学を担ぐ。 がっく【学区】〈名〉公立学校の通学を担ぐ。 がっく【学区】〈名〉公立学校の通学を担ぐ。 ❷自分たちの上に立つ人だとして、みんなでおしたてや、肩から背中の部分でになう。 捌ふくろを担ぐ。かつ・ぐ【担ぐ】〈動五〉 ●重い荷物などを、肩雲かつ・ぐ【担ぐ】

が動力を使わ っくう【滑空】〈名・する〉 、また、鳥やムササビ・モモンガなど(〈名・する〉 グライダーや飛行機

が「気流にのって飛ぶこと。 が「気流にのって飛ぶこと。 が「気流にのって飛ぶこと。 が「気流にのって飛ぶこと。 が「気流にのって飛ぶこと。 が「気流にのって飛ぶこと。 が「気流にのって飛ぶこと。 が「気流にのって飛ぶこと。 が「気流にのって飛ぶこと。 類がつかり。

、こだがしびれたり、おくんだりする。 かっけ 【▽脚気】 《名〉 ビタミンBiの不足による。 「製現 死ぬことを「がっくりいく」と言うこともある。 かっけい【学兄】〈名〉 気。足がしびれたり、もくん むくんだりする。 ビタミンBの不足による病 学問上の友人。

かつ げき【活劇】〈名〉●切りあいや なぐりあいなか **つ げき【活劇**】〈名〉●切りあいや なぐりあいなー っていう書きことば。目上の人には 使わない。 表現 男性ど

2映画などにありそうな、はでなけんかやうごき。 たちまわ

ら、せきと同時に けって喀血」〈名・する〉 が動物を表する。
が動物を表する
がある

などで言う。かつける。かんつける。 南紫東北・新潟とでおこる。胃から出るのは、「吐血は」」

かっこ【括弧】(名)数式やことばなどをかこんで、その部分を他と区別する記号。()「」『』など。その部分を他と区別する記号。()「」『』など。こ、(一)=中かっこ、[一]=大かっこを使う。

(…を)括弧に入られる 0 しっかりしていて、びくともしない。 捌 確固 】〖確▼乎】〈副・連体〉 考ラのごとを、あらためて、うたがって考えてみる。 当たり前に思われているも 。 伽確固として動煙体〉考えや思いが

っこい・い〈形〉目かない。確固たる信念。

いい。格好がつかない。格好をつける。背格好。年格かたちやすがた、ようす。「かっこ」ともいう。 図格好がかたちやすがた、ようす。「かっこ」ともいう。 図格好がい! 図かっこいい車。かっこいともいう。 図やのこといい車。かっこいい生き方。かっこいする。「格好がいい」のくだけた言いかす人の心をひきつける。「格好がいい」のくだけた言いかす人の心をひきつける。「格好がいい」のくだけた言いかす

-格好の人だ。 切け。おもに中年以

*格子・・・ 医年は五十格好の人だ。園がらみ。 - 大きっと ・ 大きになる。体裁説をたもつ。 - 大きになる。体裁説をたもつ。 がつく。かしい思

▲アリストテレス (前384~前322) 古代ギリシャの哲学者。政治学や倫理学を学問としてまとめた。

かっっこ)、
かっっこう。
かっっこう。
かっっこう。
のカッコー (参考) 「カッコー・・・・
からできた名。
かかってくる。
はかの鳥の巣にたましをうみ、
自分では育てない習性(=托卵をびをもつ。かんこどり。
よぶこどり。
プカッコー (参考) 「カッコー・・・
からできた名。 格好をつけてあて名を筆で書いてみた。

かっこう【滑降】〈名・する〉スキーで、雪の斜面**
がっこう【学校】〈名〉人を集めて教育をするところ。小学校・中学校、高等学校・大学・各種学校などがっこう【学校】〈名〉人を集めて教育をするところ。別次

。 類 スク-ル。学園

「授業」の意味で使うこともある。 「関い「学校が始まる」「今日は学校がある」など、

○ 大学は、研究と教育をする機関であることから、 一校二校と数える。○ 内で二校と数える。

学校と区別することもある。 っさ

っ のをつくること。 図日米合作の映画。 鬩共作。 喝采をあびる。 喝采を博する。 拍手喝采。 唱采をあびる。 喝采を博する。 拍手喝采。 をしたりして、ほめそやすこと。 🕅 喝彩を送い【喝采】〈名・する〉 大きな声をかけたり、 喝采を送 つの

っさら・う『・掻っ・攫う』 ま、フ・)。マミュー・ さって、図日米合作の映画。園共作。 なってること、図日米合作の映画。園共作。

言えるところが「かっぱらう」とちがう。「鬩「賞という賞をかっさらった」など、よい意味でも さる。 例売 光上金をかっさ (動五) 立〉すきを見

すること。

魍加算。 いくつかの数を合計

つじ【活字】〈名〉 ●活版印刷に使う、なまりなど かっし

でできた文字の型。図活字をひろう。活字をくむ。 る。活字に親しむ。活字に弱い。活字ばなれ。 る。活字に親しむ。活字に弱い。活字ばなれ。 でできた文字の型。図活字をひろう。活字をくむ。

、っい、活字し、 (水)をの(飲)まず どんなにこまっても、まちが・つ (渇)してもとうせん(盗泉)のみず

合掌造:

の集落は、世界遺産となって

(遺産となっている。) と、富山県五箇山キャホとにある

*地方の白川郷は

屋根うらを養蚕鯖などに使った。圏(野)岐阜県飛べてかやぶきの屋根をささえた、家のたてかた。広大な築)二本の木材を急角度のA形に組んだものをなら

か てこの原理を応用したもの、 しゃ【滑車】〈名〉 車輪に、つなをかけたもの。

が、音程のちがうグループにわかれ、そかつしょう【合唱】〈名・する〉●金をゆずりわたすこと。 関策上を割譲するにとまりこむこと。 関策化合宿。にとまりこむこと。 関策化合宿。 がっしゅ しゅく【合宿】〈名・する〉 力の方向や たもので、 大きさを変える。総 つなをひ して、効果をあげるため 物や土地の一部 ・車輪をまわ や会議な

がのかっぱっ

かんじょうなようす。 図がっしのはだ。茶褐色。赤褐色。 瀬このしば、茶褐色。赤褐色。 瀬このしばだ。茶褐色。 瀬このしばだ。 茶褐色。 瀬このしょく 【褐色】 〈名〉 の

別がっしり(と)した体格。

類こげ茶。ブラウ

黒ずんだ茶色。

(と)受

の水がかっる。関がつちり。

った

た政策。「連衡」は、小国ことに秦と同盟をむすぶの小国がたがいに連合して、秦に対抗するのがよいと国の秦とに対した小国の外交政策。「合従」は、六つ国の秦とに対した小国の外交政策。「合従」は、六つ

国の秦、に対した小国の外交政策。「合従」は、六つのときどきの状況整結におうじて、いっしょになったのときどきの状況整結におうじて、いっしょになった。 日歌 古代中国の戦国時代、日本の大学をは、一年の大学を

声合唱。合唱コンクール。対独唱。コーラス。例歓喜なの歌を合唱すれての歌を合唱するで同時に発声し、全体として一つ に、同じ文句を大声でとなえること。 対独唱。斉唱は する。三部合唱。混つの曲を歌うこと。 れ、それぞれ 三部合品 これぞれの旋律(音楽) 複数の 例万歳だの 0

> がった かっ

らつしょになる。また、いっしょにする。 圀ニっゃ・する【合する】〈動サ変〉 二つ以上のなどの水がかれること。 圀渇水期。 題水飢饉診なり、 「渇水】〈名・する〉 日照りで、川や吹すい 【渇水】〈名・

かっしょう、 大合唱 っ しょう【合掌】〈名・する〉 づくり 位合学 掌 造り 両手を顔や胸の 合掌 1 名。 建

[がっしょうづくり]

クランク

[かっし

ゃ]

かっせい【活性】〈名〉化学反応をおこしやすい性質をもっていること。 図活性炭のいるものを活気づかせること。 図活性炭のかる。 ②物質う …… を使って行なった、むかしの戦争かっせん【合戦】〈名・する〉 な、120。 ないでは、脱臭はでなどに使われる、及情でない精 なっせいたん【活性版】(名)気体や液体の精 製や脱さいてウイルスが活性化する。 図不活化。 乾燥款によってウイルスが活性化する。 図で気の が高。 図物質の性質が活発になること。 図空気の かる。 図物質の性質が活発になること。 図空気の かさや明瞭 かさや明瞭

いさや明瞭

いざや明瞭

いざさい

でする

「

でする
 「雪合戦がっせん」 という意味で、今も使われる。 むか 「歌合戦が

うさい **り**かっせん

しの戦争。類

いくさ ように、

古がいい。滑舌が、話すときの、発音

古がわるい。 ∞ニっの川の以上のもの 鉄砲野など 、川や貯水 例褐色 対抗戦 243

さしがね【差し金】〈名〉

◆大工だなどが使う、

さじ加減がむずか

手加減。手

510

棋をさす人。▽▽サ 指 担手に窮きき 将棋をすって、 す る。

さして【差し手】〈名〉 ②サシテコ
②サシテコ
②サシテコ
②サンテコ
の手。「さしで」ともいう。
図差し手争い。
と。また、その手。「さしで」ともいう。
図差し手】(名) すもうなどで、相手とからだくして「差し手】(名) すもうなどで、相手とからだくして「差し手】(名)

ない。 **クサ**シテ す。やや古風な言いかた。 さして〈副〉 (あとに打ち消しのことばをともなって) 図さしてあわてることもて…ない」という意味を表わ

さしてがまし・い【差し出がましでしゃばっていてよけいなことだ。 図出すぎた。おこがましいの、よけいなことば。 図いらぬ差し出口をう、よけいなことば。 図いらぬ差し出口をする、よけいなことば。 図いらぬ差し出口をある。 ロをする。 しゃばって 類言

▲金田一(セールセルコラ)京助(1882~1971) 言語学者・国語学者。アイヌ語・アイヌ文学の研究で多くの業績を残す。

他人が

さしと・める【差し止める】(動下一〉他させる。 図出入りを 差し止める 記事を差しさせる。 図出入りを 差し止める。記事を差しる。 差し止めを 1 指*費】(名) むかし、男子が衣冠直衣珍、狩衣診を着たときにはいたはかまの 一種直な珍、狩衣診を着たときにはいたはかまの 一種である。 ② 「…の手を差しのべる」の形で)助力する。 ② 「…の手を差しのべる」の形で)助力する。 ② 「…の手を差しのべる」の形で)助力する。 ② 「…の手を差しのべる」の形で)助力する。 むかし、男子が衣冠 差べ種しる。 きがや

力す

た言いかた。一 倒い

し、 かまこと 図差し込みが起こる。 ②さしこむもの。さしこむところ。とくに電気のブラグやコンセント。 さしこむ 【差し込む】(動五) ① 大陽の光が入りこむ。 図 朝日が差し込む。 ② すきまや穴にすっとつっこむ。 図 がり【差し 障り】(名) つごうがわるいこと。 図 差し障りがある。 題ざしつかえ。 支障。 あたりさわり。

にかあることを指なる 「などで知らせる。 例ことばが指し指し、示す】(動五) その方向にな 「ああしろ、こう

さしず【指図】〈名・する〉 すること。また、その命令。 図 ,示 したり ける。 --る。類指したり「ころ」「こ

図金については、さしずめ心配はないだろう。 題さのまるところ。 図動物にたとえれば、きみはさしずつまるところ。 図動物にたとえれば、きみはさしずいまのところ。 図動物にたとえれば、きみはさしずいまんと راع 元と用事。事態が五〉期限や行事

さしき【検敷】〈名〉一段高いとさじき【検敷】〈名〉一段高いとき、たたみをし、第)の見物のときなどに使う。 は、祭りの見物のときなどに使う。 させる。

うにしたところ。すもうや芝居一段高いところに板をしいて、

たたみをしいた

へや。

例 座敷 一つ。切りとった茎~。や枝~をきてしき【挿し木】〈名・する〉

を地面にさして、根を出る〉 植物をふやす方法の

汞

2かげで

を発表するほう万人。 別差出人不明。 対さしせま・る【差し迫る】 (動五) 即便差し迫る。 関切迫等する。 差し迫る。 関節し追った用などが、目前に近づく。 別差し迫った用い近く。 別差し追った用いている。

を差し出す。うやうやしく差し出す。 のをきちんとそろえるなどして相手にわたす。 図お金を差し出す。手を差し出す。 ②相手にわたす。 を発送するほうの 図お金を差し出す。手を差し出す。❷必要なもた・す【差し出す】〈動五〉 ●相手の前へ出売送するほうの人。図差出人不明。図受取詩人。 例書類

さたを名

(2)「お座敷がかかる」といった。 とが宴会談の席によばれるという、子どものすが さしきわらし【座敷 わらし】『座敷 童』 どが宴会談の席によばれるという意味になる。

「お座敷がかかる」というと、とくに芸人や芸者な「)、客間についていうことが多い。

さしたる〈連体〉「たいした」「それほどの」の意味の、かたい言いかた。 図さしたる問題はない。 のきしたる問題はない。 のがたい言いかた。 図さしたる問題はない。 の意味の、さしたる〈連体〉「たいした」「それほどの」の意味の、

さしぐ・む【差しぐむ】《差しマ含む》、動五》なみだがわいて出てくる。なみだべわ。で出て、対し、差し、なみだがわいて出てくる。なみだがわいて出てくる。なみだくむ。 なみだくがし、こまかく刺しぬいしたもの。 模様の美しさから手芸品に、 じょうぶさから柔道ヒッッ 着や仕事着などに使われる。 さしちが・える【刺 ること。 刺し合う。(動下 たが

相手にあたること。正当に戦って自分より強い相手覚悟。、であたる」は自分も大損害を受けるつもりでじくらいの損害を受けて終わること。「さしちがえるじ」さしちがえになる」は、両者の争いがおたがい同じ いからである。

さしこみ【差しいの。さしこむところ。と

図差し込みが起こる。 ②さしこむも 図差し込みが起こる。 ②さしこむも

でしつかえ【差し支え】〈名〉ものごさしつかえ【差し支え】〈名〉ものごさわり。さわり。支障。 さわり。さわり。さわり。さわり。さわり。さわり。されり。されり。されり。されり。されり。されり。 とだおすには、それしか方法がないからで えがない。類さし

お客様

だがいつ いらしても差し支えない ように用意してく

さ**しつか** ごうが生じ さして【指し手】 · (名) 0 で、こまを進めた

2将

がまし

する。

はなったまった、または強めた言いかた。などをさえぎって、ちがったことを言ったりする。を差し挟む。別れる。②うたがいや不満ををだときさって、ちがったことを言ったりする。を差し挟む。別ないの手を差したる。②うたがいや不満をかにもつ。別疑念を差し挟む。 がいや不満を心のな言ったりする。 囫児動五〉 ❶他人の話 な口話

かで控

の外出を差し控える。立場上、コメントは差し控えの配慮だが遠慮によって、それをするのをやめておく。

さしひき【差し引き】(名・ (路)。 2潮がみちたり、ひへらすこと。 伽差し引きへらすこと。 伽差し引き

いたりすること。鬩満ち干で、五万円の損。差し引き勘定は 3る数や量を引いてへらす。例欠勤診の・く【差し引く】(動五)もとの した分を

、ある数や量を引い

さしみ【刺身】〈名〉新鮮以な魚や肉などをうすくさしみ【刺身】〈名〉新鮮以な魚や肉などをうすく切って、なまのまましょうゆなどをつけて食べる料理。切って、なまのまましょうゆなどをつけて食べる料理。切って、なまのまましょうゆなどをつけて食べる料理。切って、なまのまましょうゆなどをつけて食べる料理。「別など。②引き立て役。そえもの。本もしみず【差しか】〈名・する〉水をつぎたすよ。つぎたす水。

さし」ともいう。

しむかい【差し向かい】〈名〉ふたりがたかしむかい【差し向かい】〈名〉ふたりがたがしむかいあってすわること。略して「さしともいう。 図差し向ける。 園が産。のかわす。使いを差し向ける。 園が選がする。つかわす。使いを差し向ける。 園が選がする。つかわす。 しも (副) あれほど。あんなにも。やや古い言いかたでしも、(副) あれほど。あんなにも。やさい言いかたがしも、(副) かい【差し向ける。 園が産。のかいあってすわる。 園が産。のかいあってすわる。 向ける。

た町も地震じんで廃墟がとなっ しもの彼もダウや古い言いかた

さしもど・す【差し戻す】〈動五〉 ●やりなおし。 さしもの【指物】〈名〉 <ぎを使わずに、板を組み をさせるために、もとにかえす。 図 地裁に差し戻す。 とて、裁判をやりなおさせる。 図 地裁に差し戻す。 の は、もとにかえす。 図 書類を差し戻す。 の は、 しとにかえず。 図 書類を差し戻す。

Ś お金やものをだましとる

さしゅ【詐取】〈名・す

たしかにこれだ、まちがいない、さしゅう【査収】(名・する) と確認. 送られて じて受け入れるれてきたものを、

表現役所などで、こと。 人に送ったものについて「どうかご

さしょう【で些少】(形動)数や量がほんのわずかでもしょう【詐称】(名・する)名前や住所、年齢はさしょう【詐称】(名・する)名前や住所、年齢はさしょう【査証】(名)「ビザ」のこと。

うに、自分がさし出すものを謙遜玆して、あらたま、衰現「些少の品ですが、お受けとりください」などの うに、自分がさし出す つよ

ざしょう【座礁】〈名・する〉 傷。園打ち身。打撲災傷。 だりして、皮膚。§内部の組織が ざしょう【挫傷】〈名・する〉 内部の組織が傷つくこと。・例脳・
「別人名・する) ぶつかったり、ころ 船が暗礁はずにのり あ 挫ん

た調子で言うときに使う。

いことから) 案だけ見て 閣 がばりつ (どん

た土砂5.が、海岸や河口5.に細長い形に積もったもさす【砂州】【砂、洲】《名》水流や風で運ばれてき塵を巻きあげて進む。 劇びこりや砂けむり。 側砂さしわたし【差し渡し】〈名〉直径は、。 の

入れる。

 () 「差す・挿す」あいだにさしこむ。 「御錠?"を差し、「差す・挿す」あいだにさしこむ。 「別報?"を送り、「差す・挿す」あいだにさしこむ。 「別報?"を送り、「差す・挿す」あいだにさしこむ。 「別報?"を送り、「差す・挿す」あいだにさしこむ。 「別報?"を送り、「差す・挿す」。 ₩錠ジを差す。 を差す。 。そそぐ、

図図 ③は、「目薬をさす」のようにも使う。「さかずきをなる。 ③と④は、「水を注す」「紅を注す」のようにマ注

す」と書かれることもある。 和歌山では、 「手袋で ҈をはめる」の意味でも使

つ差され いだりつがれたり。 ▲金日成(セールルニッセルレッキムイルンン) (1912~94) 満州の抗日運動指導者。朝鮮の南北分裂時に北の首相。72年国家主席。

「願はくは、あの扇縁の真ん中射っさせてたばせたまへ」〔平家物語〕・副願わくは、あの扇の真ん中を射させてくださいませ。 ②尊敬を表わす。… なさる。 図 敵害に後ろを見せさせたまふものかな」〔平家物語〕・副敵に後ろを見せさせたまふものかな」〔平家物語〕・副敵に後ろをお見せになるもの僧写。とくに、延ざす【を主】(名)・寺の責任をもつ僧写。とくに、延ぎすが【マ流▽石】〈副〉 ①予想されていたとおり。評しおり。 図いてらずうずうしいぼくでも、さすがの、やはり。 図いくらずうずうしいぼくでも、さすがの、やはり。 図いくらずうずうしいぼくでも、さすがの、やはり。 図いくらずうずうしいぼくでも、さすがの、やはり。 図いくらずうずうしいぼくでも、さすがの、やはり。 図いくらずうずうしいぼくでも、さすがの、やはり。 図いくらずうずうしいぼくでも、さすがの、やはり。 図いくらずうずうしいぼくでも、さすがの、やはり。 図いくらずうずうしいぼくでも、さすがの、やはり。 図いくらずうずうしいぼくでも、さすがの、やは、おいまない 「願はくは、あの扇きの真ん中射ささ・す〈助動〉古語●●使役を表わ るとくに、延 たばせた ん中を射 はせたま 例 がのあ評

はかてなかった」のように、「さすがの」とい気持ちをこめて使う。「さすがのチャンと」。 関題 ①は、感心したり、よい意味でおどろにそれだけは言いだせなかった。 ンピオ 」という形 も で年ず名にる

***で、一人の俳優が七役を、衣装 **しちへんげ【七変化】**〈名〉 連続して踊ること。ななへんげ。 ❷アジサイの別名。 いって、一人の俳優が七役を、衣装を早変わりしながらい。 ● 歌舞伎き。の舞踊 ちみ【七味】〈名〉 って ことなる七種の原材料をまぜた薬味味】〈名〉トウガラシ・ゴマ・サンショウな

んで使われる。ターキー。 (人) 頭から首にかけて毛が産の鳥。二ワトリより大きい。肉はクリスマス料理に好きの鳥。二ワトリより大きい。肉はクリスマス料理に好きない。 この名がある。

たことば。無性ほうに面倒である。鬩 七ちめんどう【七面倒】〈形動〉なく、色が赤や青などにかわるので、このなく、色が赤や青などにかわるので、こので、こので、こので、こので、こので、とば、色が、色が、色が ちや【質屋】〈名〉腕時計・指輪・着物などの、 のシチャコ してあずかり、利子をとって相手に治〉腕時計・指輪・着物などの、金 題七面倒 「面倒」を強め

試着室。 お金を貸す商売を ちゃく【試着】〈名・する〉 類フィッティング。を買うとき、ためし! いる店 しに身につけてみること。 例する〉 衣服・靴、・・・帽子・め Ø シチヤ

寿老人 [しちふくじん]

> 木に支柱を立てる。鬩つつかえ棒。 2ものごし **ちゅう** 【支、柱】〈名〉 ① ささえになる柱。 柱を失う。▽▽シチ 煮"こんだ西洋料理。◇Stew ②シチューユー〈名〉大きめに切った肉と野菜を、弱火で失う。▽②シチュー 人やもののたとえ。 例 一家の支類つつかえ棒。 2ものごとの中名〉 ①ささえになる柱。 例植

銀」ともいう。間で経営する、 間で経営する、ふつうの銀行しちゅうぎんこう【市 ∇

しちゅう (求)める → かつ(注)しちよう【七曜】(名) に う(死中)にか ・ 例 七曜表。 ・ 例 七曜表。 つ(活)をも ۲

「**しちょう**【**支庁**】〈名〉本庁から遠くはなれた、 方におかれた役所。例本庁。②シチョー 「**しちょう【市長】**〈名〉市政の最高責任者。日 では、市民の中から公選される。任期は四年。②シ 本庁から遠くはなれた、 地

ジシチ

*しちょう【思潮】《名》その時代の一般的な考っかた。図時代思潮。文芸思潮。②シチョーかた。図時代思潮。文芸思潮。②シチョーがた。図時代思潮。文芸思潮。②シチョー ▽

▽

▽

シチョ

たり聞いたり 般的な考え

を、買う前にためしにきくこと。 し**ちょう【試 聴】**〈名・する〉 例試聴室。②シチョ

ِٰ ے خ じちょう【次長】〈名〉 局長のす よ**う**【自重 豆重。 類 自制。 官庁や会社などで、部長や ❷健康に注意して、か

じちょう【自嘲】〈名・する〉自分で ● おもに語学の教育で、ビデオなどを利用ししちょうかく【視聴覚】〈名〉 視覚と聴覚。 んだり、あざけったりすること。 囫自嘲の笑い。 らだをだ じにすること。 類白愛 自分で自分をさげ ð

☆食 でありながら、独立国と同じくらいかた。 例司直の手にゆだねる 組が、どのぐらい見られているかのわりあい。図しちょうりつ【視聴率】〈名〉テレビで、あしちょうそん【市町村】〈名〉市と町と村。 覚と聴覚にうったえることを指し、「視聴覚教育」「視 かた。 いる領域。 。 例 司直の手にゆぶる (く (司 直) (名) **うしゃ【視聴者】**〈名〉 材」「視聴覚室」のように使わ 「裁判官」のあらたまった言 くらい ねる に使わ ある国の領土の の自治を

どめられ

じちんさい しちりん **Let いたり** を煮¹だり焼いたり を煮²だり焼いたり を煮²だり焼いたり を煮³だり焼いたり ろ。 絵

[しちりん]

しつ の行事。 大地の神をまつって工事のぶじをいのる、神道さい【地鎮祭】〈名〉 建築工事にとりかか

失業影 損失でつ **Ⅲ** かる 。失語症は 吐る 失

室 室長 室 室室 教室は 過失なる 室 魰

実験室

皇室に

演説で、実用的で 実用的で ●常用漢字にち〔日〕 着実は でいまっまりにいまります。実力にい **Ⅲ ①** み 。実情 果実け 木の実

。疾病なる

疾走弘為疾風弘

幸幸

刺

執

室。室咲き。

で、気をおとすこと。例名をすてて実内容。例名をすてて実力を表します。例名をすてて実力を表します。例名をすると、例名をする。例名をすると、例名を、例名をする。例名をする。例名をする。例名をする。例名を うと。その実。 ・ ころ。 倒実のある態度。
して実をとる。
対虚をすてて実をとる。
対虚 ◆じつの 2ほんとうにそなのほんとうのこと。実際。 対虚 類誠意 例実を言 **3**こめらわっている

確執が

②シ

⇒ 執政款。 動とる 執

⁵ 0 _

我執が

執究。執刀

執行

類失望。 例失意のどんぞこ。対得意。 希望することがうまくいかない

め 湿気

る 湿湿

湿る。湿り。温

湿り気を湿り気を

湿

湿

族 女部 10 全13画 第一章シッ 上ゥ

嫉

嫉

嫉

嫉

| 嫉妬とっ

漆漆

- 正式のはんこ。重要書類におす。<mark>対認め印。 題いん【実印】</mark>〈名〉役所に印鑑な登録のして

や交通網。が四方八方にひろがっていること。しつうはったつ【四通八達】〈名・する〉 ひつえき【実益】〈名〉●衣食住や金銭にかかわるような、実用上の利益。 図趣味**と実益をかねるような、実用上の利益。 図趣味**と実益をかねるような、実用上の利益。 図趣味**と実益をかねるような、実所とで、収入からがある。 道路

を高めるのにはよ 🛭 教養とか趣味とかを、利益を生まな とが多く 文学や哲学 が、実益はあまりない」のようないが、実益はあまりないものと考えかを、利益を生まないものと考え

質

質質

質いかけい。

質実

の質素も ロシチ

るし 漆。漆細工。漆塗り 常用 音シッ ■漆器は。

。漆塗り。

漆黒

こみせること。 図実演販売既。 ❷俳優や歌手などが

で演じること

一おん【室温】〈名〉 (全温】 室内の温度。 例室温を

⑩父母の膝下をはなれ しっか【▽膝下】〈名〉 ع کے か【失火】〈名・する〉 なれてくらす 「ひざもと」のかたい言いかた。 不注意から火事をおこす

○つ【室】〈接尾〉部屋へのこと。部屋を ば。例空室55は残り三室です。理科室。

。保健室。地を数えること

6しあし。例質がいい。質がわるい。量の人質】〈名〉あるものをかたちづくって

。量よりっている

質の対容の

農業・ っ か【実家】〈名〉 か【実科】〈名〉 実用的な技術 自分の生まれた家。 ぶ科目。

> の家を言うのがふつうであったが、実家に帰る。対婚家がる養家。類 里。生家

(くらしている人が親のいる家をさして言うよう)を言うのがふつうであったが、いまは、親とわからとは、結婚して生まれ育った家を出た人がそ 「一つ残らず」「ことごと

じ ための、十箇条のいましめ、仏教にも、かい、「大成」(十一滅)(十一滅)(名)」の意味の、かたい言いかた。」の意味の、かたい言いかた。 仏教にもあるし、 もあるし、キリスト人が正しく生き

つ 旧約聖書に、 【実害】〈名〉 「じゅつ. 神がユダヤ民族の の代表モーセにいるし、キリスト

定にあわなくなったりして、資いのかく【失格】(名・する) -スからそれて失格す ※だが、実害はない。 4〉 金銭面や物質面で実際に 資格をなくして 僧する。父親として失格具格をなくしてしまうこ〉 きまりをやぶったり規

学など。 つ たじ、実生活にすぐ役に立つ学問。農学・工学・医がく【実学】(名) 理論より実用性や技術を図適格。鬩欠格。

しっかと 『確と』 (副) しっかりと。やや古い感しっかと 『確り』 (副) しっかり。しっかり 『でらべらしたり の言いかた。 例しっかとつかまえて、はなさない。 の言いかた。 例しっかと (で確と) (副) しっかりと。やや古い感 ②人がらや考えかたなどがたしかで、信頼はできる。 しっかりと。やや古い ⁽しっかと⁽ かりし 感じ

しっかん【疾患】〈名〉 のが質感。 のが量感で、何でできて 見るからに「大きい」「重そうだ」など、量を感じさせる。

めに使うもの。甲ತ・乙ತ・、丙ಠ・丁ಠ・、戊戌・己ಠ・ 使を「え(=兄)」と「と(=弟)」にわけて、年や日を表わすたしっかん【十千】〈名〉「木・火・土・金・水」の五行 受ける感じ。囫金属の質感を生かした作品。かん【質感】〈名〉木材や鉄材など、そのもの々えがしっかりしている。しっかり者。 類疾病 いるかという、質を感じさせる 「病気」のあらたまった言い

実(實) 全8画 ●じっ 実

っ

実 实 実 実 ľ

例四国

563

例視聴

テ れる

レビやラジオを

606

凝視さ 一つの単語になっていて、注意を注意を表す。 ている漢語。「学校」 ・二字以上の漢字

書くと 熟語 漢字がむ 子がむす さび

み方。「明日**」「大-う読み方にはならな

しゆくじつ【祝日】〈名〉国や自治体がきめたいしゆくじつ【祝日】〈名〉国や自治体がきめたいれいの日。憲法記念日やこどもの日、都民の日など。とき、とまるところ。園宿屋。やど。②公務員や団体とき、とまるところ。園宿屋。やど。②公務員や団体とき、とまるところ。園宿屋。やど。②公務員や団体とき、とまるところ。園宿屋。やど。②公務員や団体とき、とまるところ。園宿屋。やど。②公務員や団体とき、とまるところ。園行官屋、やど。②公務員や団体とき、とまるという。

ゆ地 の一に縮尺する。縮いたり、模型を作っ 尺する。縮尺五模型を作ったり

いるイヌやネコ。 ゅ 【宿主】〈名〉 例中間宿 。たとえば、サナダ・土】〈名〉 〔生物〕 インが寄生して 寄生生物が寄

(1.1.1.1 (1.4. すりカ) オストラ と 道む 。 東々 たる態度。 ② 何があってもいちいち反応せず、かわらない態度で。 何があってもいちいち反応せず、かわらない態度で。 工事を進める」などと言うときには、② に意味が移っている。 何がっ こそかに。 可 Ø ø 行列が粛々と進む。粛々く【粛粛】〈副・連体〉 々たる態度。 **2** お

- しゅ/ な女性。 な女性。 ディー。 対紳士は、 。 類貴婦人。 気品があって、 しとや

祝勝会。祝勝パーティー。 **!!** 一般!!!に、女性をうやまって 勝利を 勝利を祝うこいうことば。

> 小。対拡大。 ゆくしょう L 、すること。また、小さ【縮小】〈名・する〉 格差を(が)縮小する。軍備縮こと。また、小さくなること。 図

ゅ く・す かた。 よう【宿将】〈名〉 す 実戦経験のゆたかな した

た図。 ま言 ゅ ず【縮 図 名 もとの形をそのまま縮 小し

、という意味でもだで、人生のあるす

るの す。食 ゆくする」とも ゅ 、することもハう。
「動みのる。うれる。②ときがたって、あることをすべてよい状態となる。劉勲したトマト。かきが勲べておい状態となる。劉勲したトマト。かきが勲でちょうどよい状態となる。劉勲したトマト。かきが勲でちょうともハう。

類安眠が

しじ りゅくせい[粛正] 〈名・する〉 きるしなできくあいになること。とくに味噌。なできくあいになること。とくに味噌。なできくあいになること。とくに味噌。なできくあいになること。とくに味噌。 ゆゆ 例綱紀をう(三 きび とう(=い)しくとり ちし ばま

統制を乱す存在

か

例英語に熟まれずする〉 すつつ

じ ゅ 例作業力

すれ、祝 なさん さんの健闘気を を祝り。 して乾杯窓 し

ゅくす 【熟睡】〈名・する〉 ぐっすりねむるこ 〈動サ変〉 **↓**じゅくす

、まろやかなう」 をゆるさず、 なできぐあい」 なできぐあい。

とゆ練 習熟。 くちょく【宿直】〈名・する〉 ち【熟知。 法を熟知する。屬然知』〈名・する〉。練達。 類熟達。 知 7 と 0 にとまり いる

て、なかなかたも こむこと。例宿直室。連絡がなどのために、 くてき【宿敵】〈名〉 。対日直。類夜直キャ√。職員が交代で勤務場所 | As TA 直続でいる敵。 いる敵。 って い

しし を披露 ゆゆ 影でで るん<u>ん</u> る。対事電もなる、名》 (初東) (名) いわいの 電儀 報言 例 祝電

じし し ゆゆ ゅ とし 】〈名・する〉: 名 して 9る〉文章などをじっくしとやかな女性の美徳。 文章 お 類精読。 おぜい の 鳴う味く

じゅくいが静まり 五十 くねん 中高年 後から老年まで、人、熟年、名と、大いるようす。 麦名) 人間として円i 熟熟年 た ワ

し ところ。 人がとまっ ゅ こまったり、ウマをとりなくば【宿場】〈名〉 む 江戸 時代に整備され、多くは宿場町にな りかえたりする設備のむかし、おもな街道器 あっ うた旅

▲西園寺公望(さいおんじきんもち) (1849~1940) 明治~大正の華族出身の政治家。立憲政友会の総裁。首相。

どの行き先で宿。をとること。図宿泊施設む。宿泊しゅくはく【宿泊】〈名・する〉旅行や出張監督な飲みほぞうとするさかずき。図祝杯をあげる。飲みほぞうとするさかずき。図祝杯をあげる。

l しゅくふく【祝知場を中心にできた町 し 費。 ゅ 類投宿。 ばまち【宿場 **福】**〈名・する〉 町【名》 江戸を しあわせを、 時 代 宿

し ゅ よろこぶこと。 例 祝福 をうけ 国家的な るのの 前 わ の行事

し しゅく のときに いだめの空 にうつ空 はう【宿坊】〈名〉一つ空砲。対甲砲撃撃の一つ空砲。対甲砲撃撃の 寺の 参拝既客や

カ。これでは、そうした。そうした。 星回點 但命を背負う。宿命ない【宿命】(名)いうのがれがたい現中のい人なかった唯のい人なかった唯のい人では、「宿命」(名) 佰命的。宿命論。[題]運命。さい現実を生み出すなりゆきのった唯一55の事実だと考えるった唯一55の事実だと考えるのない。

・**ゆ・** だめ。星河 を見する 長い文章を短くま

しゆくやく【縮約】(名・する) 長いの、後に、熟練している。熟練を到いて、経験をつんでよくなれているのいて、経験をつんでよくなれているの、なり、提供では、関連している。とのなおすこと。 図締約版。 ・イロッ ンの操作に ついて、経 ん【主君】〈名〉自分がつ。熟練工。題熟達。習熟。 る。熟練を要す

0 や君主 ゅ 中 くん 村君ん は語殊 る。殊勲賞 賞り 自分がつかえて 最 ó 高殊な 勲て 選手。 いる殿様態 **類 仞** 金 殊 星 勲

→芸】〈名〉 (名) 図手芸教室。 ししゅうや編みものなど、手

【受勲】(名・する)

勲章をさず

かること。

【受刑】〈名・する〉 刑の執行いをうける

w c low figures with the low 【(三・権国家)がもつ。統治な権や自衛が権をふれ。国際社会における最高の権利で、すべての独れずに、自分の国のことは自分たちの意思で決めれずに、自分の国のことは自分たちの意思で決めれずに、自分の国に支配も干渉なが

ので十歩/紫/をうけない主権をもつ独立国。 のゆけんこっか【主権国家】〈名〉 験)をうけること。 例大学を受験する。 受験験)をうけること。 例大学を受験する。 受験験)をうけるい主権国家】〈名〉 主 在民【名》

府でなく 国民である 「主権」 るの のは、政国家の 政の

・【修験者】〈名〉修験道を修行する。 ・【修験者】〈名〉修験道を修行する。 ・【主権者】〈名〉国家の主権をに

しゅけんしゃ [主権 4] さっている人。 [修験者] 名〉 修 しゅげんどう [修験道] 名〉 牛 しゅげんじゃ [修験道] 名〉 牛 こへ。行者はい山伏だ。 る人。行者はい山伏だ。 こん。行者はい山伏だ。 対象を開祖と 古い日・ し、本 山仏 中教 にの

し_{入一} プラ派。 **ご【主語】**〈名〉 〔文法〕 文をつ、難行・苦行をしながら修行する。

を、手 ゅ 、手わたすこと。例外交文書なり、こう【手・交】〈名・する〉にぎって、守護大名となった。 例外交文書を 于稿。 名〉直筆ロスネの、こ おお 一交するおやけ 原稿などの書 る の書類など 돌

はも

· ゆ<u>@</u> · |酒肴をふるまう。 |**ゆこう【酒▼肴】**⟨名⟩ |肯しがたいものがある。[とさかな(=つまみ)。

し

・**ごう「酒豪」**〈名〉酒にたいそう強く、たくさものにするためのくふう。 圆趣向をこらす。こう【趣(向】〈名〉ものごとを興味あるおも涸肴をふるまう。

ゆ飲む ろい چ ھ ゅ こう【受講】〈名・する〉 こうぎょう【手工 業 講義や講習を受け 業名 対機械工学手やから たくさん 業。 る

しゅごしん【守物など、おもに手先 札の投手、主力のゴー ル 7

細工が物や

焼

大阪城を建てたのは誰だれ でない表現のい ろいろ

豊田秀吉ははだろう」と答えると、「ち エさんだよ」と言われてしまう。たしかに、 を建てる作業をしたのは大工さんであって ない。正確に言うならば、「秀吉が大工き を建てさせた」ので、「 なを工 、「秀吉が大工さんに大阪城大工さんであって、秀吉ではしまう。たしかに、実際に城と答えると、「ちがうよ、大 クイズがあ

う言いかたができるためには、次の三つの条件がある。 う言いかたができるためには、次の三つの条件がある。 がれも、実際にそのはデパートでズボンの大きを重した」「市長は川に新しく橋を架っけた」などである。どれも、実際にそのしく橋を架っけた」などである。どれも、実際にそのしく橋を架っけた」などである。とれも、実際にそのしたができる人が主語でなくてもよい。ただし、こうい動作をする人が主語でなくてもよい。ただし、こういかたは他にもある。たとえば、「田このような言いかたは他にもある。たとえば、「田このような言いかたは他にもある。たとえば、「田

●その動作が、ある結果を残すためのもで、その動作をしてもらえること。で、その動作をしてもらえること。可いればがが、①の動作ができる専門のな技術が必要な動作であること。 いもので

たとえば、「市長は部屋をきれいにした」と言えは、京門のは「一人」と言えば、「市長が自分でしたことになる。だが、「市長は一十階建ての庁舎の窓**を全部されいにした」と言えば、専門家にたのんでやってもらったのだと理解できる(十②)。もう一つ、「市長はフランス料理のフルコースを作った」と言うと、市長はフランス料理のフルコースを作った」と言うと、市長はフランス料理のフルコースを作った」と言うと、市長は一十階建ての庁舎る動作は食べるためであり、結果を残すためだとは考えにくいからである(十③)。 先に挙げた例では、「城」「証明写真」「切った髪」「ちょうどいい文になったズボン」「橋」が、動作の結果として残る。

きる専門家にたの あるこ ▲西行(センルチょラ)(1118~90) 平安時代末期の歌人。諸国に旅して、自然をテーマとした歌を多く残した。

の産出される。

図温泉が出る。ダイヤが出る。

る、スピードが出る。 ● 大の目に 広くふれるような状態になる。 図掲示が出る。本が出る。新聞に出る。出まわる。● 大ききる。生じる。 図元気が出る。出まわる。 図掲示

ではない。 図まだ親の出る幕ではない。そもそもき出る幕*<ではない その人が介入ホッシッするべき場面

デルタ〈名〉三角州『『こつるす、紙でつくったかんたで、デルタ〈名〉三角州』。図デルタ地帯。◇deltaで、デルタは三角のこと。で、デルタは三角のこと。の大文字が△なので、デルタは三角のこと。

てれしょう【照れ性】〈名〉 てれやすい性分。机臭い。 鬩恥ずかしい。おもはゆい。

いようす。例でれでれした歩き〈副・する・形動〉 ①きちんとして だらしない態度をとるようす。一6うす。例でれでれした歩きか かた。倒でれ

> どが、身ぶりやことばをとおさないでわかる超能力。 ・レ パ シー 〈名〉 はなれたところにいる人の考 は、「デレデレ」となる。 「でれでれの」「でれでれだ」の場合

超能力。◇
○人の考えな

ナレビ(名)「テレビジョン」の略。電波による映像のtelepathy レビを消す。 ر اح اح タサす。テレビ番組。テレビゲーム。 ふつうは、家庭などの 受像装置を いう略字をあてることもある。

てれや【照れ屋】〈名〉すぐに照れる性分の人。園テレポーテーション〈名〉◆テレジにはる人間テレポーテーション〈名〉念力はによる人間テレビジョン〈名〉

でかしかる。 そんなこと言われたら照れちゃう。 てれからい 【野 水 子 管】(名) あれこれうまで かいことを言って、人をに解れて笑うこと。 きゃ恥ずかしいときに照れて笑うこと。 しことを言って、人をだましたりる。 関そんなこと言われたら照れちゃう。 ずかしがる。例そんなこと言われたら照れちゃう。て・れる【照れる】〈動下一〉きまりがわるくて、は

段。 例無差

テロリズム(名)テロを手段として政治的な目的 我や無差別殺人を行なう者。◇terorist 殺や無差別殺人を行なう者。◇terorist のデロップを流す。◇telop テロ っっつしださ う真などを、カ

。の一部)と羽前(山形県の大部分)に分けられた。羽州形県。明治になって羽後(秋田県の大部分と山形県形場。明治になって羽後(秋田県の大部分と山形県・山てわ(出羽)(名) 旧国名の一つ。現在の秋田県・山 をとげ する考えかた。 terrorism

てわけ【手分け】〈名・する〉 一つの仕事を、何人かの手分け。 題分担。

ら手へじかにわたす。

図書類を手渡す。

てわた・す【手渡す】<

動五〉相手に会って、手か合料を手渡しでもらう。

治料を手渡しでもらう。

の者が【手業】

〈名・する〉手渡すこと。

図

天

②あま 天の川。天下 昇天な 元/kg。雨天5/k。先天的tkf. 天地5/k。天然5/k。天井5/k

辞典

訓みせ 店 占 書店 点

う。付き添う。寄り添う。添い遂げる。添い寝 添

▲ 徳川慶喜 はしのぶ (1837~1913)

転転転 ②ころげる な。移転な。七 おい、転居なる。 る七

転げる。笑い転げる。
 受い、対し、
 (直) とし、
 (重) の形にして「填」とも
 (重) のように、
 (重) のまる
 (重) のまる

「てん【天】■〈名〉●地に対して、無限に高く遠いところにひろがる空間。天文学でいう天球。例天をあまら、天にのどる。天と地。例地。関空。全人の力のおよばない、絶大な力をもつかずのもうな存在。例天の声。天の助け。運を天にまかせる。●神などがいるの声。天の助け。運を天にまかせる。●神などがいるの声。天の助け。運を天にまかせる。●神などがいるとされる理想の世界。天田。◆書物や荷物など、上下のきまっているものが、上の部分。図地のメニューの名につけることは。図豚天。ミックス天。

上から見えるところをさすのに対して、「天」は抽象のけることば。 図 豚天。ミックス天。 ■〈接尾〉 東京などで、お好み焼きのメニューの名に■〈接尾〉 東京などで、お好み焼きのメニューの名に ラウ的な場所や存在である場合が多 ●5(地)

大高たがく馬っ。肥にゆる秋。。 大気もすみわたって天が高く感じられ、収穫だらの時期で、馬は太ってたくましくなる、秋の季節のすばらしさをいう。 よいくなる、秋の季節のすばらしさをいう。

天にも昇のばる心地だとまるで空にいる人も多い。▼マンガで例解®(fi のを冒瀆がするたとえ。神をもおそれないたとえ。 真上に唾をはくと自分にかかってしまうという のが本来の意味だが、②の意味に誤解だして のが本来の意味だが、②の意味に誤解だして

天の配剤が たんなる偶然がではなく、神のような存 しい気持ち。 まるで空にま いあがるよう

天は二物紫っを与きえず、天は、人に二つも三つも在がうまくとりはからったとしか思えないこと。 長所をあたえることはないということから、長所ばかり

天は人での上っえの人間というのはい に人を造っくらずいないものだ。 人の下したに

人を造らず 人間はみな平等である、ということ。 田野 福沢諭吉診のことばと誤解されやすいが、出典 の『学問のすゝめ』には、「…を造らずと言えり(言われている)」とある。福沢は、このことばをアメリカの独立宣言の一文をもとにしたといわれている。 "天は自然"ら助た。くるものを助く 天は、人にたよらないで、自分で苦労し努力する人を助けるものだ。 よらないで、自分で苦労し努力する人を助けるものだ。 よらないで、自分で苦労し努力する人を助けるものだ。 よらないで、自分で苦労し努力する人を助けるものだ。 よらないで、自分で苦労し努力する人を助けるものだ。 ようないにとどくほど高い。②ものすごい勢いである。「倒意気天を衝く。 いである。「例意気天を衝く」。 いである。「例意気天を衝く」。 いである。「の意気天を衝く」。 いである。「の意気天を衝く」。

ように見える。

宮殿でんり

❷〔数学〕 図形の中心や、線のまじわりをしめす、位置 があって面積がないとされるところ。

● → とうてん(読点)

② → とうてん(読点)

② → とうてん(読点)

② 漢文の訓読をしめすために、漢字につける符号。

② 成績などの評価。 図 点があまい。点がからい。点をかせぐ。点をつける。点をとる。 題点数。得点。
をかせぐ。点をつける。点をとる。 題点数。得点。

② はいれる。点をとる。 園点数。 得点。 3とくに問題としてとりあげるところを表わす形式名

てん[展]〈接尾〉 てん 【▼貂】 〈名〉ネコくらいの大きさで、尾*が大きい 具などに使われる。・プテンけもの。小動物をとらえて ♡「展覧会」の略。 例常設> 店**のこと。 例飲食店。->。 ∅テン 例常設展。 印象

でん

はい田園で **訓**た 田 田野

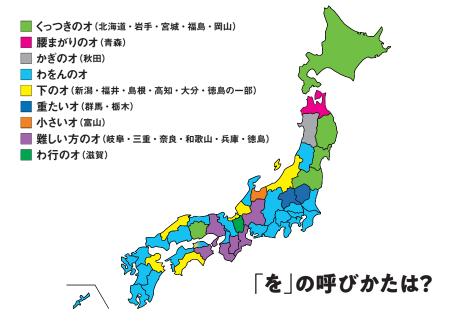
 \blacksquare

ン ガ で 例 解 9 天に唾ぎする



学校方言 ――「を」の呼びかた

オと発音する二つのかな「お」と「を」を区別する時に、「を」を「ウォ」と発音して区別することもありますが、学校現場ではこの「を」を特定の呼びかたで区別しているところも多く、呼びかたは地域によってさまざまです。



関東・中部を中心に四国、九州まで広い範囲で使われているのが「わをんのオ」です。この三つのかなをまとめて並べている五十音図に影響された呼びかたです。

文字の形に注目した呼びかたとしては、青森の「腰曲がりのオ」や秋田の「かぎのオ」があります。近畿地方で広く使われている「難しい方のオ」も、「を」が小学生にとって書きにくい形ということであればこのタイプに含まれます。

「を」が「○○を」のように助詞として使われることに注目した呼びかたが「下のオ」で、中国・四国を中心に各地に見られます。「くっつきのオ」も同じ発想で、北海道から東北地方に広がっています。「○○を」と語の下に位置するため、群馬では「重たいオ」と呼ばれます。

富山に限定される「小さいオ」は、「大きい」をかなで「おおきい」と書くため、その「大きい」の「お」ではない方という発想からだと思われます。

